

最近の経済情勢

(県内企業経営状況調査の結果)

- ◇ 調査期間 令和3年5月18日～5月31日
- ◇ 対 象 県内企業500社対象
 - ・有効回答202社：回答率40%
 - ・内訳：製造業 250社(回答104社)
非製造業 250社(回答98社)
- ◇ 方 法 Webアンケート及び電話ヒアリング

産業労働部

設問

問1 新型コロナウイルス感染症が経営に与えている影響

問2 業況：①現況、②3か月前との比較、③今後(3か月程度)の見通し

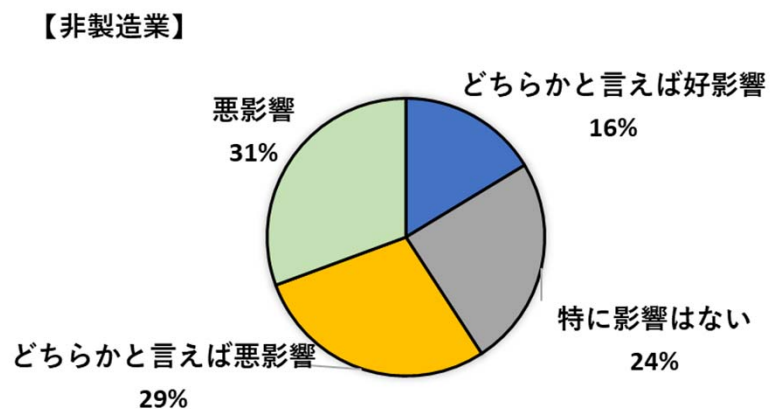
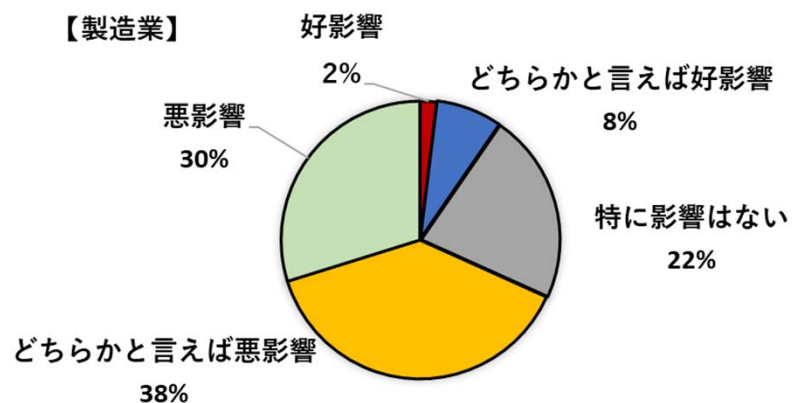
問3 経営課題

問4 設備投資：①取組姿勢、②予定している設備投資の目的

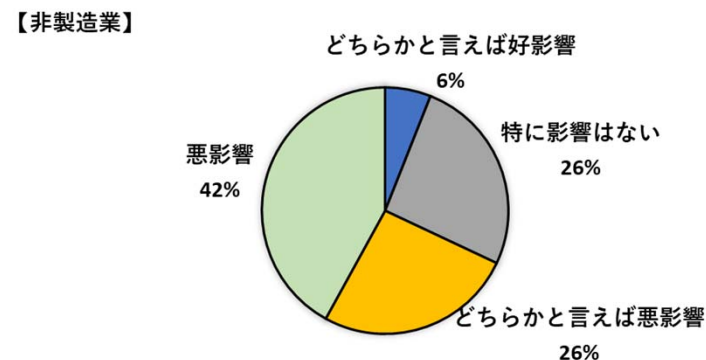
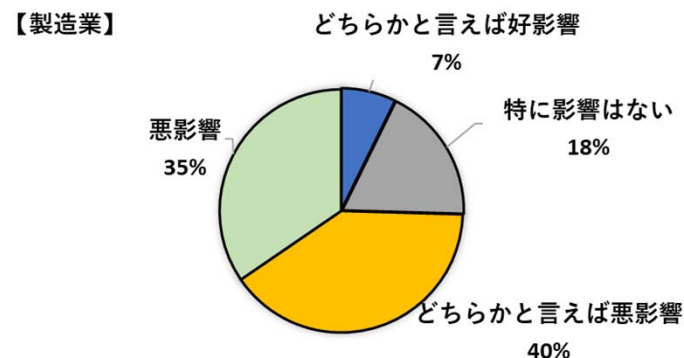
問5 雇用状況：①従業員数の過不足の状況、②過不足職種

1. 新型コロナウイルス感染症が経営に与えている影響

- 「悪影響」または「どちらかといえば悪影響」と回答した企業は依然として半数を上回るが、前回調査より減少傾向にある
- 宿泊業・飲食業においては、前回調査と同様、約8割の企業が「悪影響」と回答



(参考) 前回(令和3年1月)調査時



1. 企業の主なコメント

製造業

好影響

・感染症対策商品(マスク、AIサーマルカメラ)などの売上が好調に推移

どちらか
といえば
好影響

・リモート化等によるデバイス需要拡大やデータセンター拡大など、半導体需要拡大の要素が多い為、売上が増加している。

影響無

・落ち込む業種もあれば伸びる業種もある為、今のところ影響はない。

どちらか
といえば
悪影響

・企業訪問ができず、営業新規開拓がやりにくい

悪影響

・緊急事態宣言に伴う飲食店の休業や時短営業のため、業務用食器の買い控えがおきている。

非製造業

どちらか
といえば
好影響

・巣籠もり需要による売り上げアップ

影響無

・イベント需要が減ってはいるが、飛沫感染対策の新規商材が増えているのでトントンで推移している。

どちらか
といえば
悪影響

・顧客のコロナ禍による業績不振で一部の工事受注が減少した

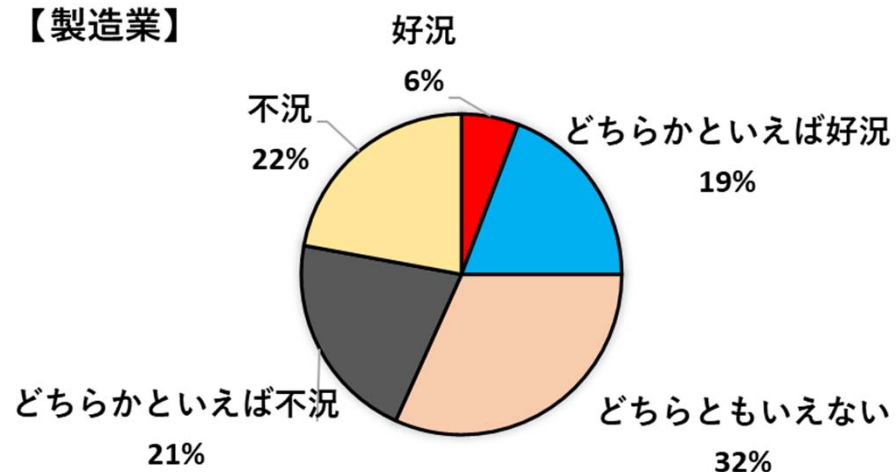
悪影響

・人の移動制限等々で、主にバス、タクシーの乗車人員低下が顕著である。
・ゲストの動きが全く無く、宿泊売上・外食の売上が上げられない。

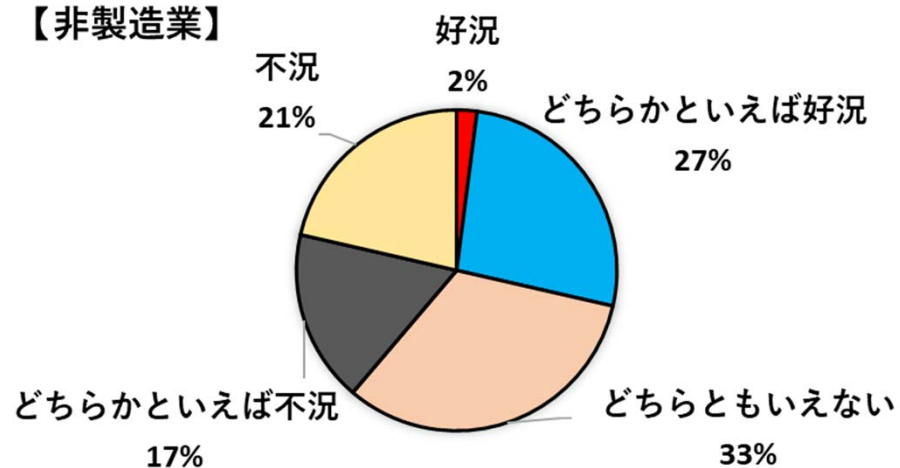
2. 業況 - 現在の業況 -

- 製造業においては、前回調査と概ね同様
- 非製造業においては、「どちらかといえば不況」と「不況」を合わせた回答が6割弱であった前回調査に対し、今回は4割弱に減少

【製造業】

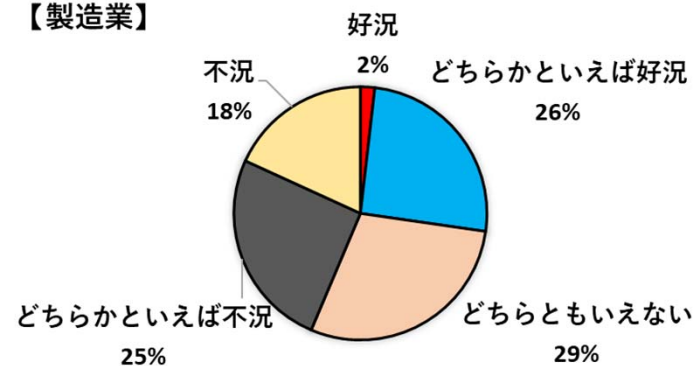


【非製造業】

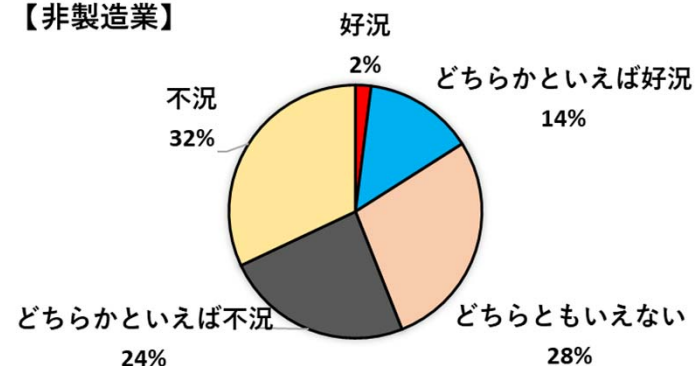


(参考) 前回(令和3年1月)調査時

【製造業】



【非製造業】

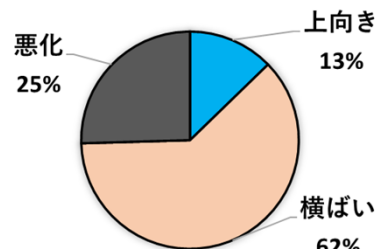


2. 業況 - 変化 (3か月前→現在→3か月後)-

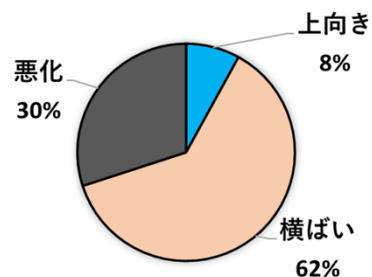
- 3か月前から現在までの業況は「横ばい」が製造業で約6割、非製造業で約7割であった
⇒前回調査(1月)の予想時から製造業、非製造業ともに「悪化」の割合は微減している
- 製造業では約7割、非製造業では約8割が今後3か月の業況は「横ばい」と予想し、これまでの3か月と比べ、「上向き」と「悪化」が共に微減している

(参考) 前回(令和3年1月)調査時の
現在→3か月後の予測

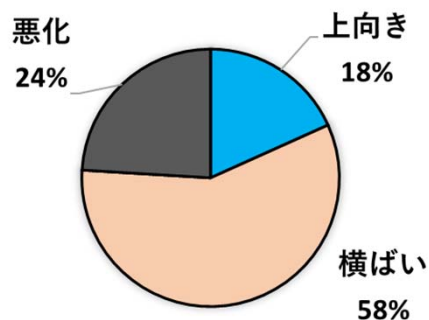
【製造業】業況の変化(現在→3か月後)



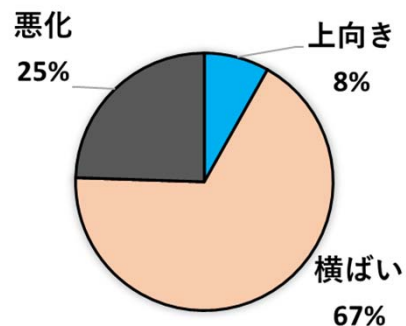
【非製造業】業況の変化(現在→3か月後)



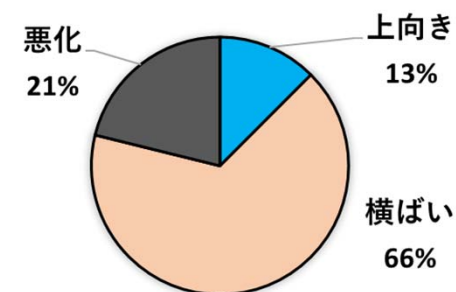
【製造業】業況の変化(3か月前→現在)



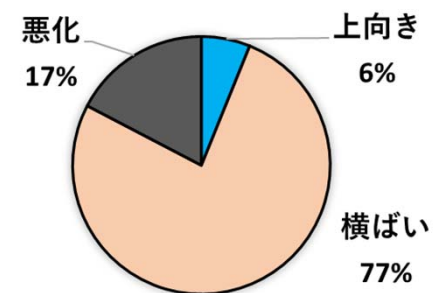
【非製造業】業況の変化(3か月前→現在)



【製造業】業況の変化(現在→3か月後)



【非製造業】業況の変化(現在→3か月後)



2. 企業の主なコメント(今後3か月の業況見込で分類)

製造業



13社

- ・ワクチン接種の効果によって人の移動や集まりなども徐々に戻ってくると考えられる。
- ・今後はますます半導体の需給逼迫状況となる事が予想される。



69社

- ・新型コロナウイルスの収束時期が見えない中、当面は化粧品需要の回復は見込めない。
- ・販売チャンネルを多面的に行っているため、何とか受注を安定的に頂いている。
- ・コロナウイルスの影響により、現場工事が遅れ気味である。



22社

- ・自動車業界における半導体供給不足等による生産減
- ・造船業の不況により今後4~5年は厳しい業況が続くと予想する。

2. 企業の主なコメント(今後3か月の業況見込で分類)

非製造業



6社

- ・コロナ禍とはいえ、車での移動増や新型車の発売等の好要因がある。



75社

- ・内食重要増加による売上増も落ち着いてきており、油断できない状況
- ・当業界の需要が回復するのはまだ時間がかかると思われる
- ・新型コロナウイルス感染症の拡大により、全体的に貨物量が減少している。この状況はしばらく変わらないと見込む。



17社

- ・通販・仕出しの利用件数は少しずつ上昇。ただ、消費者の消費自粛は今後も続くため厳しい状況は続く予想。
- ・市中の飲食店等の営業が引き続き不調なため、需要の回復が見込めない。

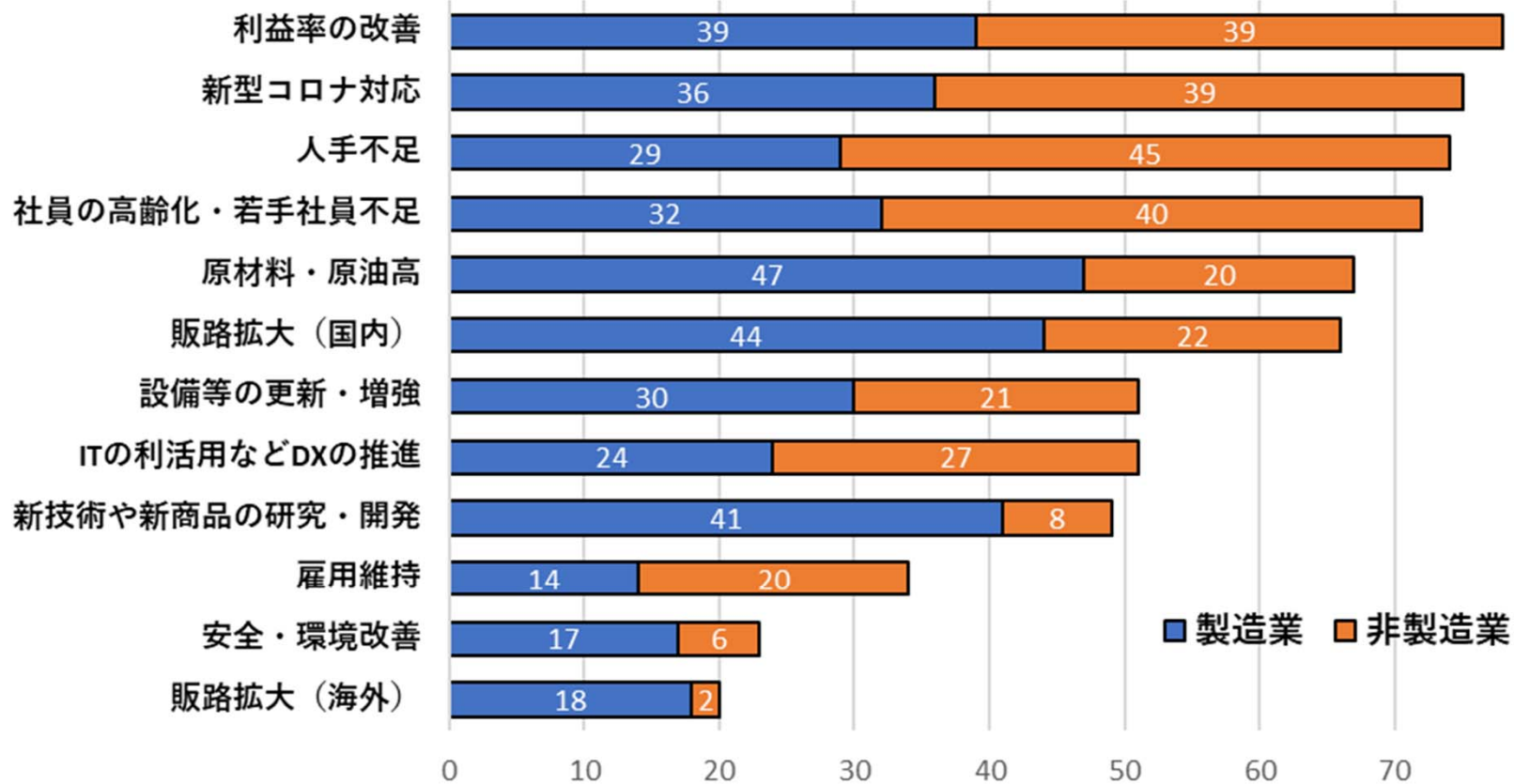
3. 現在の経営課題(複数回答)

製造業

原材料・原油高	47社 (45%)
販路拡大(国内)	44社 (42%)
新技術や新商品の研究・開発	41社 (39%)
利益率の改善	39社 (38%)
新型コロナ対応	36社 (35%)

非製造業

人手不足	45社 (46%)
社員の高齢化・若手社員不足	40社 (41%)
利益率の改善	39社 (40%)
新型コロナ対応	39社 (40%)
ITの利活用などDXの推進	27社 (28%)



(選択社数20社以上の選択肢のみ記載)

3. 企業の主なコメント

製造業

【原材料・原油高】

・主原料の鉄スクラップの高騰が続いている。

【販路拡大(国内)】

・消費が低迷している中、新たな販路拡大を行いたい。

【新技術や新製品の研究・開発】

・従来の工法にICT技術を組み込み効率化・省人化等を打ち出していくために、研究開発に注力している。

非製造業

【人手不足】

・資格を持った技術者が不足しているため、案件はあっても入札等に参加できない。募集しても全く応募がない。

【利益率の改善】

・売上は減少しているが、固定費が大きいいため、経費が思うように削減できない。

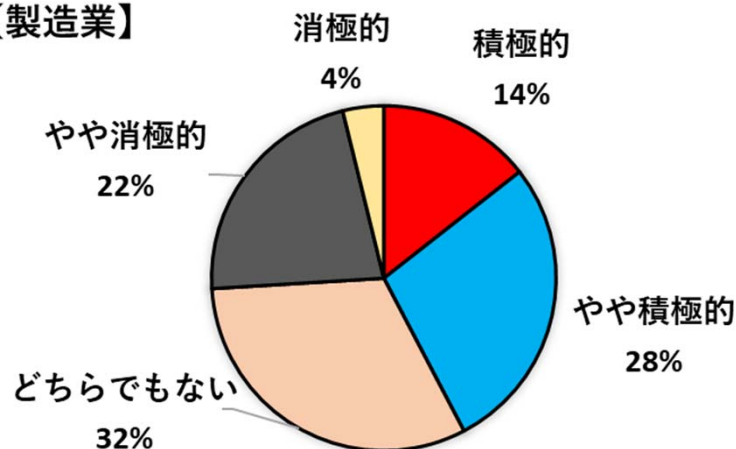
【ITの利活用などDXの推進】

・色々な面でIT活用による効率化を推進しなくてはならない。より高度なIT活用を考えると資金投入には限界がある。

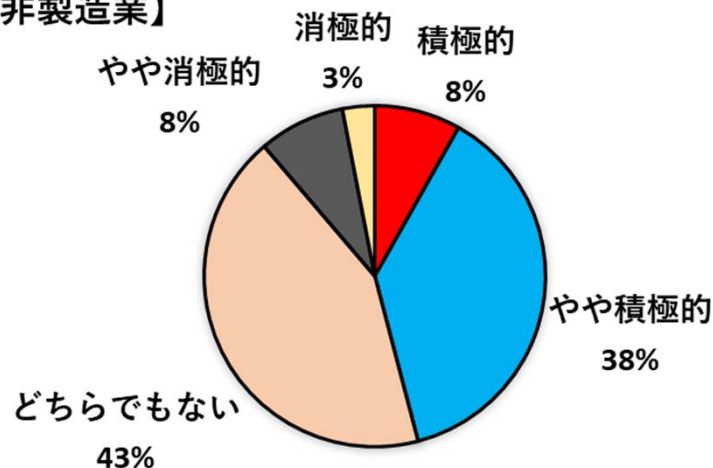
4. 設備投資 - 取組姿勢 -

- 製造業では、「どちらでもない」が減少し、「積極的」と「やや積極的」及び「消極的」と「やや消極的」が共に微増している
- 非製造業では、「消極的」と「やや消極的」の割合が減少している

【製造業】

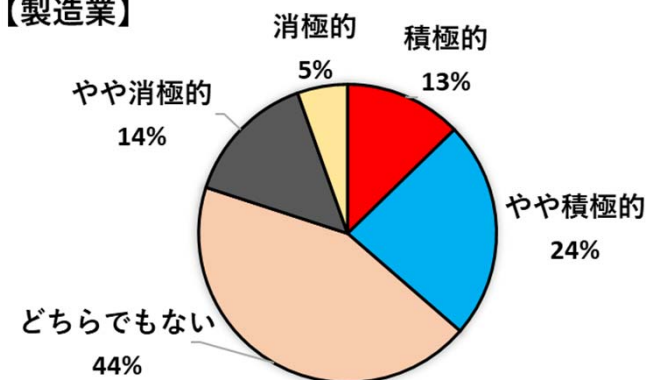


【非製造業】

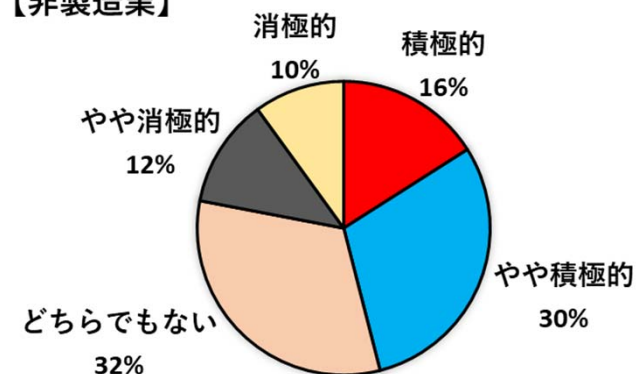


(参考) 前回(令和3年1月)調査時

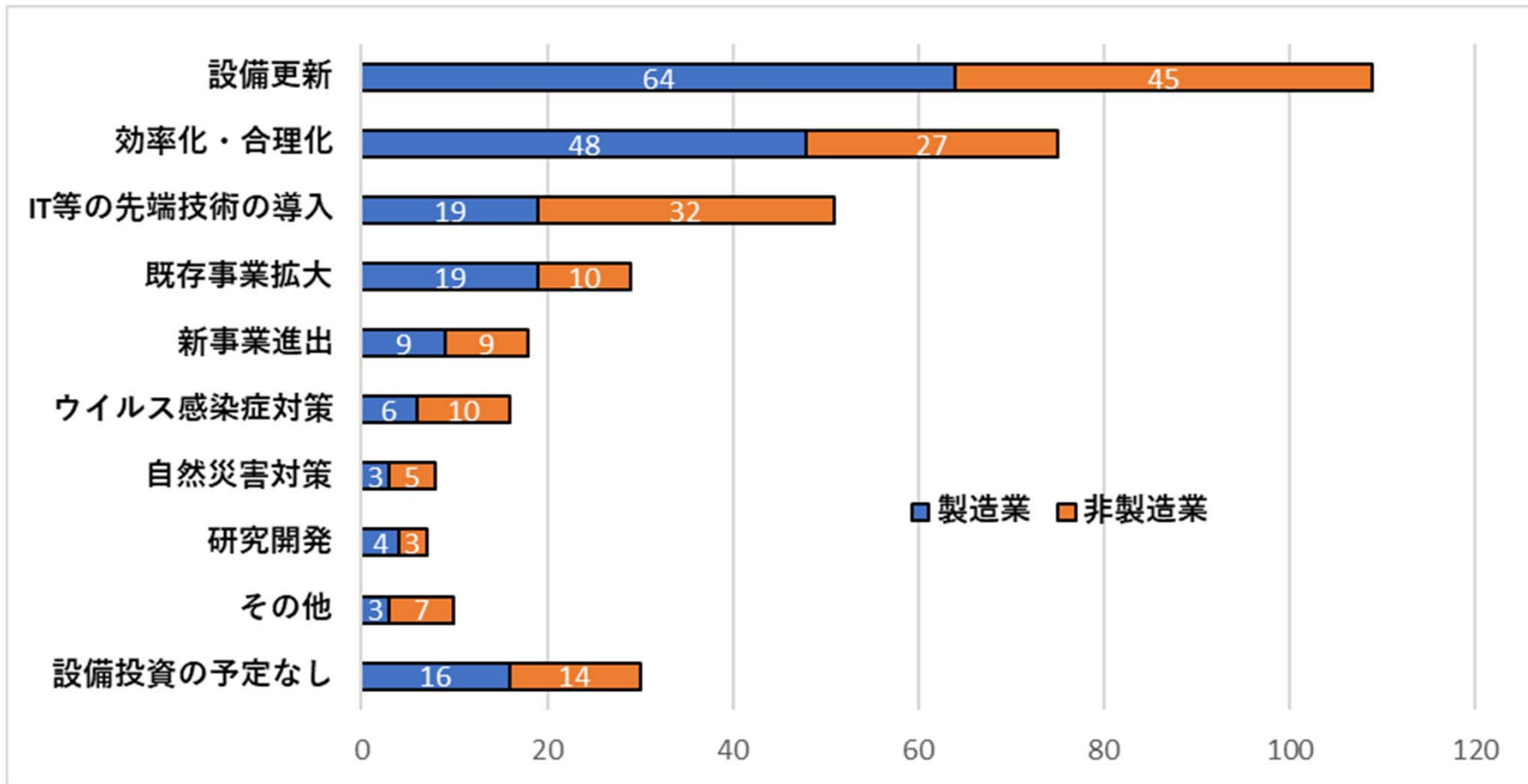
【製造業】



【非製造業】



4. 設備投資 - 目的 -



企業の主なコメント

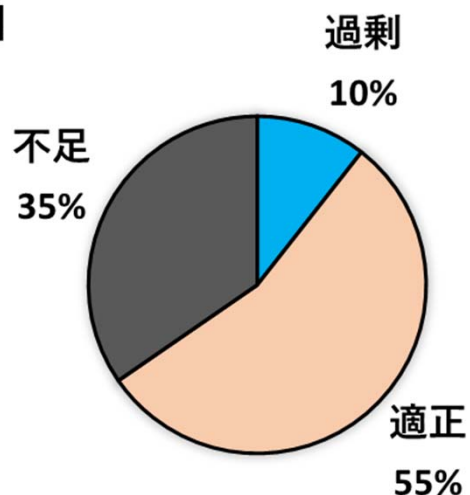
- ・全・半自動化を進め、省人化を加速させる。
- ・商品・原材料の受発注関連や経理の効率化を進めている。
- ・DXの推進により新たな事業形態の構築に取り組んでいる。
- ・今の閑散期のうちに設備等の劣化が目立つ箇所は修繕し、業況回復時に備える。

5. 雇用状況 - 過不足感 -

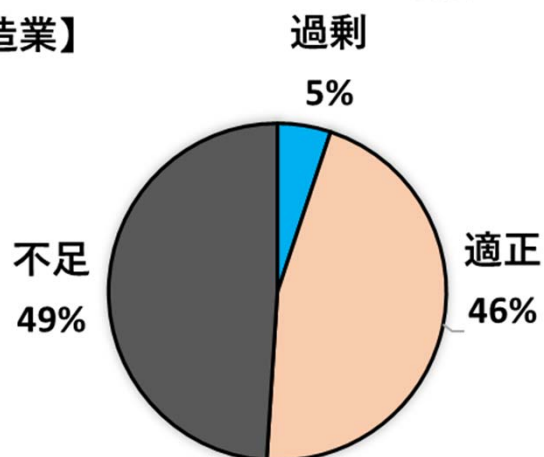
- 製造業、非製造業共に「不足」の割合が前回調査時より減少している
- 「不足」業種の上位は、製造業で技能工(58%)、単純工(36%)、非製造業で専門・技術(44%)、販売・営業(44%)

(複数回答、括弧内は「不足」と回答した企業中の回答割合)

【製造業】

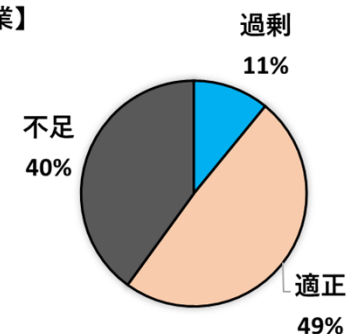


【非製造業】

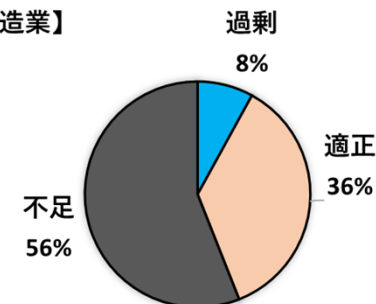


(参考) 前回(令和3年1月)調査時

【製造業】



【非製造業】



5. 企業の主なコメント

製造業

「不足」

- ・専門技術を有する人の募集になかなか応募がなく、困っている。

「適正」

- ・毎年、高校の要請に応じて説明会を行っている為、新卒者の求人は確保している。

「過剰」

- ・技能職(工場現場)は、生産減少により過剰気味。

非製造業

「不足」

- ・技術職の不足。中途採用募集をかけているが、実務経験が必要な為応募が殆ど無く厳しい。

「適正」

- ・全体の人数としては適正。ただし、一部技術職や管理職は不足もしくは高齢化している。新卒新入社員は引き続き採用していきたいが、数よりも質を重視したい。

「過剰」

- ・業績が安定しない中での弊社の新規雇用は消極的にならざるをえない。ただ、新規人材の確保も必要と考えるジレンマもある。